

## 第3回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会

### の開催結果

- 1 日 時 令和8年1月13日（火）15時00分～16時30分
- 2 場 所 富士吉田市役所東庁舎2階 206会議室
- 3 出席委員 18名（委員名簿順）  
廣田健委員長、品田笑子委員、渡辺利彦委員、勝俣米治委員、  
前田厚子委員、勝俣大紀委員、宮下公雄委員、浅沼鎮雄委員、  
遠山賀津男委員、伊藤秀一委員、村松悟委員、親田悠平委員、  
中村亮太委員、渡邊久美子委員、深澤なつき委員、  
関口亨委員、遠山賢子委員、加々美せつ子委員
- 4 出席職員 柏木教育委員会次長、林教育研修所所長、  
勝俣教育研修所課長補佐、  
安保学校教育課課長、清水学校教育課課長補佐、  
丸山学校教育課課長補佐、羽田学校教育課主幹
- 5 内 容 (1) 開会  
(2) 委員長挨拶  
(3) 【議事】  
①第2回検討委員会会議録の承認について  
②富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会スケジュールに  
ついて  
③学校施設の再編検討について  
(4) 閉会

#### 【本日の資料】

第3回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会 次第

第3回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会 席次表

第2回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会 会議録

資料1：富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会スケジュール（案）

資料2：学校施設の再編検討（案）

## 会議録

### ○事務局

定刻となりましたので、ただ今から、「第3回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会」を始めさせていただきます。

議事に入るまでの間、私、教育委員会 学校教育課長の安保が進行を務めさせていただきます。

本日の会議につきましては、お手元の会議次第により進めさせていただきます。

本日は、本市が委員会運営等の支援を委託しております、株式会社ファインコラボレート研究所も同席しておりますのでご承知おきください。

また、庄司学委員、渡邊淳子委員におかれましては、本日ご欠席となる旨、事前に連絡を頂戴しております。

なお、本委員会の会議につきましては、委員数18名のご出席をいただいております、委員会設置要綱第5条第4項に規定されております定足数に達しておりますことをご報告させていただきます。ここで、皆様の机上にご用意いたしました本日の資料の確認をさせていただきます。

#### 【本日の資料】

第3回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会 次第

第3回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会 席次表

第2回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会 会議録

資料1：富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会スケジュール（案）

資料2：学校施設の再編検討（案）

（追加資料）学校の配置状況

不備や不足など、ございませんでしょうか。

はじめに、廣田委員長からごあいさついただきます。よろしくお願いいたします。

### ○委員長

新しい年になりました。これから議論をつくしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### ○事務局

ありがとうございました。

それでは、廣田委員長に議事の進行をお願いしたいと存じます。

廣田委員長よろしくお願いいたします。

○委員長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに次第3 【議事】①「第2回会議録の承認について」です。

第2回検討委員会の会議録について確認いたします。第2回会議録を承認することにご異議ありませんか。

○委員

<異議なし>

○委員長

ご異議なしと認めます。

よって第2回会議録は承認されました。

次に【議事】②「富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会スケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

○事務局

本日の議事の流れからご説明します。【議事】②「富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会スケジュールについて」は前回の委員会で委員の方からのご意見を受けまして、事務局で検討を行い、来年度まで延長するスケジュールに組み替えました。

次に、【議事】③「学校施設の再編検討について」は、前回説明しました学校再編案の資料に、再編後の各校に最も遠い児童生徒の通学距離・通学時間の検証、長寿命化改修計画に基づくトータルコストを追加しました。

また、前回の検討委員会にてご指摘のあった内容は以下のように対応します。

「富士吉田市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」に一部、誤植があった箇所を修正しましたので、資料を順次、差し替えていきます。

「学校の配置状況の資料にある学校配置密集度合いが、再編後にどのように変化するのか」というご質問に関しては、追加資料をご用意しました。

「学校再編計画の策定に向けたスケジュールについて」は、第1回検討委員会で、本年度3月末までに再編案をまとめるスケジュールを提案しましたが、委員の方からのご意見や、事務局も住民の方からの声も広く取り込んでいきたい意向がありますので、来年度の10月まで、検討委員会を延長していきたいと思えます。

3月の第5回検討委員会までに再編後の学校配置の方向性と、再編後の地域ごとの新しい学校像を示していきたいと考えています。

来年度の6月から7月までに住民説明会かワークショップを開催し、地域の方からの意見や理解を得ながら、10月までに再編計画をまとめる予定です。

○委員長

検討委員会を来年度の10月まで延長し、来年度には、住民説明会かワークショップを行いながら、大体月1回のペースで進めていきたいという内容でした。

ただいまの事務局からの説明につきまして、ご意見等ありますでしょうか。

○品田委員

子どもたちへのヒアリングは行うのでしょうか。学校統合など大人の価値観で意見を聞くのではなくて、子どもたちの柔らかい発想を聞き入れることも大切だと思います。

○委員長

子どもたちから「どのような学校になったらいいか」といった意見を確認するなど、子どもたちの意見も取り入れる必要があるというご意見でした。それ以外にご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

よろしければ、本件については事務局からの提案通りとすることで、ご異議ございませんでしょうか。

○委員

<異議なし>

○委員長

それでは、【議事】②について提案通りといたします。

次に、【議事】③「学校施設の再編検討について」についてです。

事務局から説明をお願いします。

○事務局

追加資料「学校の配置状況」からご説明します。富士吉田市の小中学校が7校になると、1校当たりの可住地面積は2.58k㎡になります。山梨県の近隣4自治体を含めた平均が3.17k㎡と比較すると、やや狭くなります。また、2.53k㎡の都留市とほぼ同規模になります。

続きまして、「学校施設の再編検討」の資料を説明します。1ページは、学校配置の考え方です。

再編検討の考え方は、適正規模・適正配置方針に基づき

1. 望ましい学校規模の実現
2. 望ましい通学距離の実現
3. 4地域間の整合性：各地域に小学校を配置 です。

学校再編による改善策は、

- ①小学校の小規模校解消
- ②中学校の生徒数減少対応
- ③再編後も地域に小学校を1校以上配置し、地域との連携を継続としました。

10年後の再編案を経て、20年後の再編案を

案①明見中を他校と再編

案②3地域の中学校を再編し新設

案③富士見台中・富士小小中一貫校

になります。

2ページは、現状配置を維持した場合の20年後の学級数を地図で示しています。

富士見台中、下吉田第一小、富士小においてクラス替えのできない小規模校が継続します。明見中も小規模校が継続します。

3ページは20年後の児童生徒数・学級の変化を示しています。

4ページは、令和7年度在籍の児童生徒へのヒアリングから、最も遠い児童・生徒の通学距離・通学時間を検証しています。

各学校から最も遠い児童・生徒の通学距離・通学時間を地図に示していますが、各校とも学校までの距離、通学時間は適正配置基本方針の範囲内にあります。

5ページは、現状配置を維持した場合のコストシミュレーションです。令和2年度に策定した学校施設長寿命化改修計画から、工事単価を最新の工事履歴の実績に置き換え、物価上昇率を補正值として反映させています。総コストは30年間の合計で264億円、20年間の合計で238.6億円になります。

6ページは10年後の学校配置（案）です。10年後までに、富士見台中、下吉田第一小、下吉田東小を再編する計画になっています。

7ページは再編後の通学時間・通学距離の変化を示しています。富士見台中に通っている生徒の通学距離が3.9kmになり、通学時間が69分に伸びます。

8ページからの再編案①は、明見中、富士見台中を下吉田中に再編する案です。

資料は、20年後の学校配置（8ページ）、児童・生徒数の推移（9ページ）、通学距離・通学時間の変化（10ページ）、コストシミュレーション（11ページ）になります。

現在、富士見台中に通っている生徒の下吉田中への通学距離が4.8kmになり、通学時間は84分に伸びて、適正配置の基準を超えます。

12ページからの再編案②は、明見中、富士見台中、下吉田中を下吉田東小跡地の新設中学校に再編する案です。

資料は、20年後の学校配置（12ページ）、児童・生徒数の推移（13ページ）、通学距離・通学時間の変化（14ページ）、コストシミュレーション（15ページ）になります。

現在、富士見台中、明見中、下吉田中に通っている生徒の新設中への通学距離・通学時間は、適正配置の基本方針の範囲内にあります。

16 ページからの再編案③は、明見中、下吉田中を富士見台中に再編して、富士小との小中一貫校とする案です。

資料は、20 年後の学校配置 (16 ページ)、児童・生徒数の推移 (17 ページ)、通学距離・通学時間の変化 (18 ページ)、コストシミュレーション (19 ページ) になります。

現在、下吉田中に通っている生徒の富士見台中への通学距離が 3.8 km になり、通学時間が 61 分に伸びます。また、明見中に通っている生徒の富士見台中への通学距離が 4.9 km になり通学時間が 78 分に伸びますので、2 校とも適正配置の基準を超えます。

20 ページは、学校運営費を含めたコストシミュレーションを現状配置のベース案と再編案①、②、③で比較しました。

ベース案と再編案①では、再編案①に年間 5.4 億円の削減効果があり、30 年間では 162 億円の削減になり、学校数が減少することによる効果が見込めます。

再編案の説明は以上になります。ご審議をよろしくお願いいたします。

○勝俣 (米) 委員

再編案③の小中一貫校は義務教育学校を想定していますか。

○事務局

富士小、富士見台中の 2 校を残した小中一貫校を想定しています。義務教育学校は、富士小と富士見台中を一つにして、9 年間の教育カリキュラムを作成する必要がありますので、そこまでは想定していません。

○勝俣 (米) 委員

6 ページの 10 年後の学校配置には富士見台中はなくなっています。資料③の小中一貫校の 20 年後の学校配置と、6 ページの 10 年後の学校配置は矛盾しているように思いますが、富士見台中は、10 年後再編されて一度無くなり、20 年後に再配置されるのですか。

○事務局

6 ページの 10 年後の学校配置は再編案①、再編案②を想定しています。再編案③を想定した 10 年後の学校配置案は作成していません。再編案③の 10 年後は、富士見台中は残りますので、中学校は 4 校を維持し、小学校を 7 校から 5 校に再編する案になります。

資料に、10 年後、20 年後に再編した姿を地図に記載していますが、一気に取り組むのではなく、2031 年に富士見台中と他校との再編から始めて、順次行ってい

きます。資料として提示している事務局案を目安に、その内容や再編時期、順番などはこの検討委員会で協議していきたいと思えます。

○勝俣（米）委員

再編案③には小中一貫校、もしくは義務教育学校を方向性に入れて欲しいです。

○委員長

再編案③は、小中一貫校だけでなく、義務教育学校も検討する項目とします。

○勝俣（大）委員

明見地区は交通機関があまり充実していないため、通学距離が延びた場合でも通いやすい環境への配慮をお願いしたいです。

○委員長

通学距離はどの案も伸びてしまうので、通学に関してはきめ細かな配慮は必要になります。前回の委員会でも議論された内容なので、その対応は明確にする必要があります。

○渡辺（利）委員

これまで、人口が増えるに伴い学校も増えてきた経緯があるので、人口が減ってくると学校も減らすことになることは、もとに戻ることだと思います。資料には10年後、20年後の配置図が示されていますが、その10年間、20年間の間はどのような形になるのですか。無くなる学校の跡地はどうなるのか。10年間以上何もしていない状態になりますか。

○加々美委員

学校跡地に関しては地域の方と協議の上、その活用方法を検討していきます。

○委員長

資料には10年後、20年後の再編案のみを示しておりますが、20年間、1年ごとのスケジュールを設定して、1校ずつ既存校舎の改修を行いながら、段階的に再編を行っていることが読み取れます。

○渡辺（利）委員

20年後に取り組むのではなく20年を待たずに、10年間、20年間の間で計画的に取り組んでいくことだと認識しました。地元へは進め方や、内容をしっかり説明する必要があると思えます。

児童・生徒数が減少する推計を根拠にした計画になっていますが、本当にそのように推移するのか、検証が必要です。学校をなくすことは地元からの反発も大きいことから、根拠を明確にしてしっかりとした準備をすることが重要だと思います。

学校再編は、規模の適正化だけでなく、いかに魅力ある学校をつくるのが重要です。小中一貫校は、校舎や校庭の併用などで効果はありますが、9年間を通して新たな学習環境をつくり魅力ある学校にしていく義務教育学校を目指すべきだと思います。

専任の先生を配置して、小学生も専門的な学習が受けられるなどの魅力が増えれば、入学したい子どもも増えていくと思います。義務教育学校に関して事務局ではどのように考えていますか。

#### ○事務局

現在は、義務教育学校のノウハウが乏しく、専門的な教員の確保が難しい状況だと認識しています。

#### ○渡辺（利）委員

山梨県は義務教育学校への取り組みが遅れているようですが、先進的な地域では義務教育学校に力を入れています。魅力ある学校を目指し、義務教育学校を検討していただきたいと思います。

#### ○品田委員

第1回検討委員会議事録の私の発言内容に「単学級でも悪くない」という記載がありましたが、「小中一貫校において悪くない」ということを付け加えます。魅力ある学校とは、大人の価値観ではなく、子どもたちにとって魅力ある学校を目指すべきだと思います。

#### ○加々美委員

教育委員会としては、義務教育学校は9年間を同じ子どもたちで過ごすことになるので、人間関係の固定化を懸念しています。また、富士吉田市では「誰もが等しく、同じ教育環境にする」ことを目指しており、「多様な人と共存、協力しながら、子どもたちを育む」ことを教育理念としています。

#### ○委員長

これまでの議論を整理します。

- ①再編案の進め方は、10年後、20年後に取り組むのではなく、10年間、20年間をかけて、徐々に取り組んでいきます。

- ②人口の少ない地域で義務教育学校に取り組んでいる学校があります。その背景は人数が少なすぎて1つの学校が成立しないため、地域と一体となって取り組んでいるようです。
- ③義務教育学校においては教育のカリキュラムが重要で、教員の確保も必要です。教員の育成は取り組んでいる大学もありますが、すぐには増えないと思います。
- ④中学校の部活の地域移行は、積極的に取り組む必要があります。
- ⑤山梨県は子どもの意見を積極的に取り入れる先進的な取り組みを行っているので、対応していきたいと思います。
- ⑥都留文科大学と連携して魅力ある学校づくりに取り組むことも考えられます。

#### ○渡辺（利）委員

下吉田第一小は小規模特認校に指定した後も児童数が増加していないので、最初に対応すべき学校だと思います。その次に下吉田東小の対応を検討するように、優先順位をつけて重要な学校から段階的に取り組んでいくことが重要です。

#### ○事務局

市内の小中学校において「誰もが等しく、同じ教育環境にする」ことを目指していますが、急速な少子化による課題が顕在しているため、適正規模・適正配置の方針を策定した上で、早期に対応策を実現することが重要だと考えました。義務教育学校は、教育カリキュラムの作成や教職員の体制づくりに時間を必要とすると認識していることから、基本方針の実現を優先的に取り組んでいきたいと思っています。

#### ○加々美委員

地域ごとにみると学校配置が異なっていることは把握していますが、児童・生徒数の現状をみると、市全体の視点から適正な学校配置を検討しないと「誰もが等しく、同じ教育環境にする」ことが実現できないと考えています。

#### ○品田委員

ネットニュースから中学校1年生で暴力事件が増えているようですが、その要因は自己決定理論が脅かされているからではないかということです。自己決定理論の3つの欲求は「自律性」、「有能感」、「関係性」と言われているようですが、この基本的な欲求がかなえられるような学校を目指すことを考えたらいかがでしょうか。

#### ○遠山（賀）委員

10年後に富士見台中と富士小で、義務教育学校のモデル校を立ち上げる案を考えました。富士見台中と富士小が義務教育学校として魅力ある学校となり、その後下吉田第一小や下吉田東小を再編すれば、下吉田第一小や下吉田東小の子どもたちも、その学校に進んで通うようになると思います。

○事務局

市全体として同じ教育環境を維持したいので、市内の小中学校の学校規模を適正規模の基本方針に合わせる必要があると考えています。10年後に富士見台中と富士小で義務教育学校として立ち上げて、児童・生徒が増えるわけではないので、適正規模にするためには現在の学区を広げる必要があります。

○遠山（賀）委員

市内の小中学校に義務教育学校のモデル校があってもいいと思います。

○渡辺（利）委員

義務教育学校をつくるための必要な規模の規定がありますか。

○事務局

義務教育学校の具体的な規模の規定はありませんが、市全体として同じ教育環境を維持するためには義務教育学校も適正規模にする必要があると思います。

○渡辺（利）委員

義務教育学校は中一ギャップがなくなるというメリットがあります。児童・生徒数が少ない地域で義務教育学校になっている学校もあります。上暮地地区は児童・生徒数が少ないので義務教育学校に向いていると思います。

先日、明見中学校が長寿命化改修で新しくなりました。施設の環境も新しくなり新しい学校の方向性が見えてきています。

○委員長

これまでの議論を整理すると大きく以下の2点になります。

富士吉田市全体からみた視点で学校配置を議論する必要があるということと、義務教育学校にはメリット、デメリットがありますので、その方向性の議論を深める必要があるということです。

それ以外にご意見等ありますか。

○遠山（賢）委員

学校が少なくなると、地域の避難場所や地域活動の拠点が少なくなることが懸念されます。富士吉田市は地域活動が盛んな地域なので、これまでの地域活動が継続していけるような対応を検討する必要があります。

○委員長

富士吉田市の地域の特徴や継承されている文化などのよさを絶やさないことは重要です。

今回の検討委員会は、再編案に関する議論が中心でした。次回も引き続き議論を深めていきたいと思えます。

何かご質問はありますか。

よろしいでしょうか。

それでは、【議事】③についてはこれで終了といたします。

以上で、予定していた議事は終了しました。

進行を事務局にお返しいたします。

○事務局

廣田委員長、ありがとうございました。

ここで事務局から事務連絡がございます。

次回会議の日程につきましては、スケジュールを組み直す中で、なるべく早く調整したいと考えております。

日程が決まり次第、委員様宛の通知を発送させていただきますので、よろしくお願いたします。

それでは、以上で、第3回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。

以上